

WEEKLY



REPORT

創立/1986年2月19日 (会長)村山 圭治 (副会長)神原 一久 (幹事)中島二三男
例会場/〒171-8505 東京都豊島区西池袋1-6-1 ホテルメトロポリタン TEL 03-3980-1111
事務所/〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-29-14-101 TEL 03-3985-7577 FAX 03-3590-6644
HP <http://www.toshimah-rc.jp> E-mail info@toshimah-rc.jp

2015～2016 年度会長方針 「今年度は 30 周年です。一回でも多くの奉仕活動に参加しましょう。」

第 1419 回例会

2016 年 4 月 27 日

本日のプログラム

ガバナー補佐訪問 (3回目) 11:00～11:30
例 会 12:30～13:30
会員卓話 「私の履歴書」 中島二三男会員

次回 (5月11日) のプログラム

例 会 12:30～13:30
会員卓話
イニシエーションスピーチ 成枝 隆明会員
※4日は祝日休会です

今月のソングリーダー 佐野明三郎会員

前回の例会報告 2016 年 4 月 20 日

会 長 報 告

1. 「平成28年度熊本地震」の被災者への義援金につきましては、現在ガバナー事務所の連絡を待っております。ハッキリしましたらまたご連絡したいと思いますので宜しくお願いします。
2. 大和証券池袋支店長の成枝隆明様が今日から見えておりますので、前川会員からご紹介お願いします。
3. 米山奨学生の朴健植 (パク・コンシク) 君が来ておりますので、4・5月分の奨学金をお渡しすると共に、カウンセラーである稲川会員からご紹介をお願いします。



米山奨学生 朴健植君



年間皆出席会員

幹 事 報 告

1. ガバナー事務所から「青少年奉仕ガイドブック」が届いております。量が多いのでコピーしたものをホワイトボードの下に置いておきますので興味のある方はご覧下さい。
2. 「30年史」に載せるコメントですが、未だ出されていない方がおられます。早めに事務局の方にお出し下さい。

5月の例会スケジュール

5月4日 祝日休会
.....
5月11日[1420]
例 会 12:30～13:30
会員卓話
イニシエーションスピーチ 成枝 隆明会員
.....
5月18日[1421]
5クラブ合同例会 11:30～14:00
卓 話 「鉄道弘済会～84年の取り組み」
公益財団法人鉄道弘済会 会長 佐々木信幸氏
(紹介者) 幹事 中島二三男会員
.....
5月25日[1422]
例 会 12:30～13:30
ホームミーティング報告会

「家族を養う」から「家族が養う」へ

—— 中国人留学生の今と昔

「人民日報海外版日本月刊」編集長

「日本新華僑報」編集長 蔣 豊氏



「来日して28年だそうです、今と昔で留学生にはどんな違いがありますか」とよく聞かれる。私は、「当時は留学生が家族を養っていたが、今日では家族が留学生を養っています」と答えている。と言うのも、当時、留学生は学費や生活費だけでなく、中国にいる家族の生活費も稼がなければならなかった。ところが、今日では、海外に留学する子どもの学費も生活費もほとんど親が出している。

1980年代、中国と日本の経済状況は大きく異なっていた。1988年、私が出国した頃の1カ月の給料は76元（約1280円）であったのに対し、日本では1日で1万円を稼ぐことができた。現在は人民元の価値が上がり日本円の価値が下がっただけでなく、何より、多くの中国人が数千円以上の給料を得るようになった。

我々の時代の中国人留学生は朝から晩までアルバイトをするのが常だった。私個人は月に3つから4つのアルバイトをかけもちしていた。ところが、現在、中国人留学生の多くは「社会体験」のためにアルバイトをするのだという。好奇心でという者さえいる。

当時は、一部屋に何人かの中国人留学生が一緒に住むという状況もあった。しかし、ほとんど部屋には誰もいなかった。皆アルバイトに出ていたからだ。先ごろ、ある日本語学校の学生寮取材した際、木製の二段ベッドに6人が寝起きしていた。ベッドの周囲にはカーテンがひかれていた。「誰がいる？」と声をかけると、カーテンの後ろから一人また一人と充血した眼をした顔をのぞかせた。「何してるの？」とカーテンをめくると、それぞれがコンピューターでゲームをしていた。

「君たち、アルバイトはしてないの？」と尋ねると、「父に、日本に行って半年経ったら考えればいいと言われました」、「母に勉強だけすればいい。バイトのことは考えなくていいと言われました」、「祖母に早く行って早く帰ってきなさい。バイトな

んかするんじゃないよと言われました」との答えが返ってきた。

1988年当時、国は私費留学生に、日本円への両替は8000元（約13万5000円）を1回限りしか認めていなかった。今日、私費留学生には年間5万ドル（約546万円）の両替が認められている。留学生時代、レストランでバイトをしていたとき、食器を割って指を怪我したことがあった。絆創膏を貼って皮手袋をして仕事を続けた。最近聞いた話だが、ある中国人留学生がレストランでバイト中に指を怪我した。すぐさま、（携帯電話の）微信（ウィチャット）で中国の親戚に知らせると、両親、祖母の4人は動画を見て大騒ぎになり、もう二度と彼にバイトはさせなかったという。

時代は変化している。日本留学前、私は『中国青年』という雑誌の仕事をしていた。日本でも物書きを生業にできと思っていた。ところが、当時の日本には華字紙は一紙も無かった。私が創刊した『日本新華僑報』も含めて、現在、日本にはおよそ40の華字紙がある。多くの中国人留学生はそこで働きながら学ぶことができる。

当時、中国人留学生の働き方は大半が受け身であった。牛黄やダイエット石鹸や101育毛剤、さらには、中国語に翻訳された日本語教材を自由に販売できたとしたら、こんなに羨ましいことはない。今日では、多くの中国人留学生が、日本にやって来るや「創業」する。代理購入、電子商取引がその主戦場になっている。

今昔二代の中国人留学生の日本での働き方は異なるが、是非を論じる問題ではない。感慨深いのは、改革開放から30余年で、中国のGDPは日本を抜いて世界第二位となり、中国と日本が経済を補完し合う関係になったことだ。中国人留学生が日本で考えるべき最優先課題はもはや「生計」でも「家族を養う」ことでもなく、未来への創造、イノベーション、創業である。これこそが発展ということであり、世代から世代へとより力をつけている証である。



■ゲスト

「人民日報海外版日本月刊」編集長

「日本新華僑報」編集長

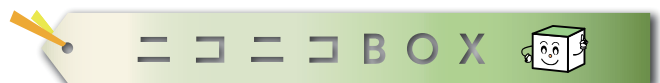
米山奨学生

蔣 豊様

朴 健植さん

■出席報告

会 員	出席参加 会員数	出席数	欠席数	出席率	3月30日分 修正出席率
33名	30名	23名	7名	76.67%	86.67%



中島会員／4月15日の5クラブ合同コンペで、強風の中ハンデホールがうまくハマリまして優勝させていただきました。団体戦も3位でした。